

集合住宅における飛翔昆虫調査

○元木 貢, 佐々木 健

アペックス産業㈱

密閉性の高い集合住宅であっても、うっかりすると多数のコバエが繁殖することがある。そこで、これらの昆虫がどこから、どの程度侵入するのか調査を試みた。

調査場所は、川崎市の丘陵にある鉄筋コンクリート造り、築 13 年の 6 階建て集合住宅の 4 階にある住宅で、アルミサッシの窓が 4 ヲ所ある。そのうち、日中窓を開けている 2 ヲ所には 20 メッシュの網戸が設置されており、飛翔昆虫が侵入しにくい構造である。周囲には雑木林が若干残されており、丘陵の法面は雑草が生えている。

住宅内のリビングルームの屋内側に粘着式捕虫器（ムシポリス、朝日産業株式会社製）を、2014 年 6 月 22 日から 8 月 2 日までの 41 日間及び 8 月 2 日から 9 月 2 日の 31 日間の 2 回設置し、粘着シート上に捕獲された昆虫を同定した。

調査期間中、飛翔昆虫を室内で見かけることはなかったにもかかわらず、2 回の合計で 4 目 14 科 179 匹（1 日当たりの捕獲指数 2.49）、（1 回目の捕獲では、4 目 13 科 111 匹、捕獲指数 2.71、2 回目は 2 目 6 科 68 匹、捕獲指数 2.19）であった。

捕獲数の多い順に、ユスリカ科>ノミバエ科>クロバネキノコバエ科>ヌカカ科=タマバエ科>ハヤトビバエ科>アザミウマ目>ニセケバエ科=チョウバエ科=ショウジョウバエ科=キノコバエ科=コバチ上科=アリ科=カメムシ目であった。

ユスリカは丘陵の下に暗渠になった川とその上流（住宅から 200m ほど）に分水嶺の用水があり、屋上付近でしばしば群飛が見られる。腐食物から発生するコバエ類は、隣接のベランダにある鉢植え、周辺の雑草地、雑木林が発生源と思われる。

住宅内への侵入口を調査したところ、①玄関ドアと枠の上部の隙間、②アルミサッシの上部レールの隙間、③網戸とアルミサッシ引き戸との隙間、から微小昆虫が侵入可能であった。①では、明らかに外部の光が見えるほどの隙間があり、風が強い日に内部が陰圧になると容易に侵入できると推察された。②では、一見隙間がないように思えたが、隙間の内部に蜘蛛の巣があることから、ここから頻繁に侵入していると思われた。③では 20 メッシュの網戸を通過する、網戸をしてあっても窓を半開きにしておくと、窓と網戸の間に大きな隙間ができる。このように一見密閉度が高いと思われる建物であっても、コバエなどの微小昆虫の侵入を阻止することは難しい。住宅内に腐食物を放置すると、内部で繁殖を開始することから、清掃を徹底すること、生ごみは小まめに捨てること、捕虫器を設置して侵入したコバエを早期に捕獲することが望まれる。